

# 稲・大豆作情報 (NO. 3)

## 1. 水稻作況情報田の生育概況 (7月18日現在)

品 種 場 所	移植日 栽植株数	年 次	現在の生育状況			概況
			草 丈 c m	茎 数 本/㎡	主稈 出葉数	
夢しずく 佐賀市本庄町	6/17 17.7株/㎡ (平年6/16,18.1)	本 年	57.2	294	9.2	7月3半旬は、気温は高く(+1.3℃)、降水量は多く(137%)、寡照条件(71%)で経過している。 ◇平年と比べ、 草丈:「夢しずく」は高く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は平年並。 茎数:「夢しずく」は平年並み、「さがびより」「ヒヨクモチ」は少ない。 主稈出葉数:「夢しずく」「さがびより」はやや進んでいる。 *「ヒヨクモチ」も移植時期から見るとやや進んでいる。
		平 年	48.2	295	9.1	
		平年比	(119)	(100)	(+0.1)	
さがびより 小城市芦刈町	6/20 18.6株/㎡ (平年6/19,17.2)	本 年	44.4	264	9.4	
		平 年	42.7	336	9.2	
		平年比	(104)	(79)	(+0.2)	
ヒヨクモチ 小城市牛津町	7/2 18.8株/㎡ (平年6/27,18.8)	本 年	27.9	105	7.4	
		平 年	28.6	197	7.8	
		平年比	(97)	(53)	(-0.4)	

注1) 各品種 前作: 麦 注2) 施肥及び病虫害防除は地区基準に準ずる

注2) 平年値は、過去10年間(H25~R4)の平均値(さがびよりについては、R1年を除くH24~R4年の平均値)

## ◆農業試験研究センター米づくり情報3号 7月18日(抜粋)

移植日	項目 品種	年 次	草 丈	茎 数	葉 齢	葉 色	概 況
			cm	本/㎡	L	SPAD	
6月10日	夢しずく	本 年	46.9	291	9.3	38.9	[気象] 7月10日~17日まで ◆平均気温…平年より1.4℃高い ◆日照時間…長い(平年比 108%) ◆降水量…多い(平年比 241%) [生育] ◆草丈 「ヒノヒカリ」は低く、その他の品種ではやや低い ◆茎数 全品種少ない ◆葉齢 「夢しずく」は平年並み、「ヒノヒカリ」及び「さがびより」は遅く、「ヒヨクモチ」は進んでいる ◆葉色(SPAD) 「夢しずく」は高く、「ヒノヒカリ」はやや低く、「さがびより」「ヒヨクモチ」は低い
		平 年	48.7	348	9.4	37.5	
		平年比(差)	96	84	-0.1	+1.4	
	ヒノヒカリ	本 年	39.9	372	8.6	40.5	
		平 年	43.3	476	9.5	40.8	
		平年比(差)	92	78	-0.9	-0.3	
6月20日	さがびより	本 年	39.9	281	8.8	36.7	
		平 年	41.6	372	9.5	41.3	
		平年比(差)	96	76	-0.7	-4.6	
	ヒヨクモチ	本 年	38.0	573	10.4	38.7	
		平 年	39.2	630	9.9	41.3	
		平年比(差)	97	91	+0.5	-2.6	
留意点	○ 茎数の少ない圃場では浅水管理を行い、分げつ促進に努める。						
	○ 必要な茎数が確保できた圃場においては、中干しを実施する(※令和5年産は全体的に茎数は不足気味)。「夢しずく」は7月第5~第6半旬に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。						
	○ トビロウカ及びビョブノメイガの発生に注意する。						

注1) 耕起概要等は前号参照。

## 2. 水稻管理

これまでの大雨による深水や寡照条件で軟弱徒長し、莖数が不足している圃場が見受けられるので、適正な水管理を行い、有効茎確保に努める。

### ○水管理 ～ 稲体の健全化を図る ～

- ・今後も浅水管理・間断灌水を徹底し、分けつ発生を第一に管理する。
- ・ガス湧きが確認されている圃場は、1～2日落水→数日浅水管理→1～2日落水を繰り返し、土壌の急激な還元化を抑制する（目安としては、落水後、田面に軽くひび割れがみられるようになったら入水）。特に水面に油膜が見られる場合は早急に落水する。
- ・スクミリングガイの食害被害も水位管理不良田、圃場凹部で確認されている。浅水にして貝の活動抑制を行うと共に薬剤防除を実施する。

### ○穂肥（早植え水稻「夢しずく」）

- ・5月下旬～6月上旬移植では穂肥施用時期に達している（幼穂長1～5mm程度）。穂肥施用時は湛水し、その後の間断灌水では、地固めと根に空気を送るため落水期間を長めにとる。いもち病が発生している圃場は、穂肥施用によりいもち病の発生を助長する可能性があるため、施用にあたっては十分注意する。

#### 【山間・山麓「夢しずく」穂肥診断基準】

幼穂形成始期の草丈	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量	
	群落	葉緑素計	出穂前	幼穂長	N成分 kg/10a	BB602 kg/10a
73cm以下	3.0以下	34以下	20～22日	1mm	2.0	12.5
	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	2.0	12.5
	3.5～3.8	38～39	15～14日	10-15mm	1.6	10.0
	3.8以上	40以上	施 用 し ない			
73～79cm	3.0～3.5	34～38	18～20日	2mm	1.6	10.0
	3.5～3.8	38～39	14～15日	10-15mm	1.0	6.0
	3.8以上	40以上	施 用 し ない			
80cm以上	原則として施用しない					

※草丈は、幼穂の伸長程度により幼穂形成期（1mm）を基点に、前後1日あたり1cm増減する。

※出穂前15日以降の穂肥は、玄米タンパク値を上昇させるので施用しない。

### ○雑草防除 ～節水栽培などで、雑草が発生してきたところは、早めの対策を～

- ・雑草の生育（葉齢）に注意し、中後期除草剤による早めの対策を講じる。

対象	除草剤名	使用時期	備考
ヒエ類	クリンチャー 1kg粒剤	移植後7日～ビエ4L 但し、収穫30日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）
	クリンチャー EW	移植後20日～ビエ6L 但し、収穫30日前まで	落水散布。展着剤加用。
	ヒエクリーン 1kg粒剤	移植後15日～ビエ4L 但し、収穫45日前まで	湛水散布（3～4日は湛水）

対象	除草剤名	使用時期	備考
広葉雑草	バサグラン粒剤	移植後 15日～55日 但し収穫60日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。
	バサグラン液剤	移植後 15日～55日 但し収穫50日前まで	高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。
ヒエ類および広葉雑草	クリンチャーバス ME 液剤	移植後 15日～バ <sup>1</sup> E5L 但し収穫50日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。 最低3日間入落水しない。 高温条件下では、薬害が生じやすいので夕方散布。(展着剤無加用)
	ハイカットI和粒剤	移植後 15日～バ <sup>1</sup> E3.5L 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～4日は湛水)
	フォローアップI和粒剤	移植後 15日～バ <sup>1</sup> E5L (稲4葉期以降) 但し、収穫60日前まで	湛水散布(3～5日は湛水)
	ワイドアタック SC	移植後 20日～バ <sup>1</sup> E6L (稲5葉期以降) 但し、収穫30日前まで	落水～ごく浅く湛水散布。(展着剤無加用)

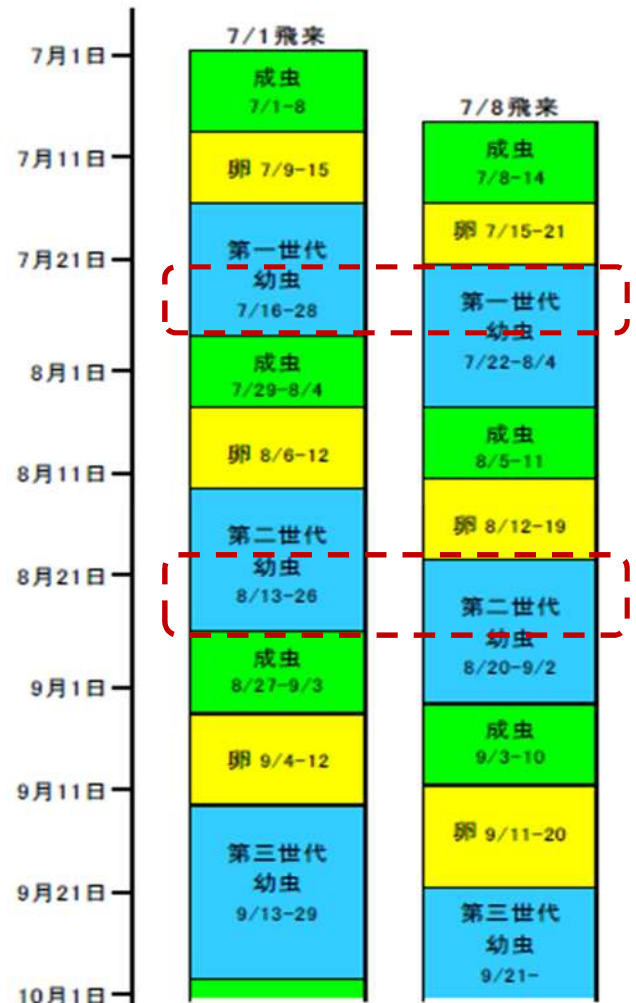
○病害虫情報(発生および防除)

- ・今年のとビイロウンカは、現在までのところ、7/1、7/8の2飛来波が確認されている。
- ・7月18日現在、平坦圃場でとビイロウンカは確認していないが、移植時期や品種によっては飛来・定着している可能性があるため、今後それぞれで発生状況を注視する。
- ・農業技術防除センターから7/18に情報提供された発生予測図は右図のとおり。
- ・梅雨明け後に、対策資料としてとビイロウンカの発生予測図が情報発信される予定であるため、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

佐賀県 農業技術防除センター 

暫定防除時期(7/18現在)

- 1回目 7/22～7/28
- 2回目 8/20～8/26



※植え付け時期などで、地域によって、飛来波の

定着状況が異なる可能性があるため、必ず現場での発生状況を確認し、防除時期を判断する。

※防除する場合は、湛水するとともに株元まで十分にかかるように丁寧に散布する。

### 3. 大豆管理

これから播種する圃場は、栽植密度を増やし、収量確保に努める。  
播種後に晴天が続き高温乾燥が予測される場合は、播種深度は4～5cmの深めとし鎮圧を行う。

#### ○圃場準備 ～ 耕起は水分の低い時に。大雨・長雨予報の時は無理しない～

- ・大豆は、石灰の吸収量が多く、根粒菌の活動促進のため、石灰を必ず施用する(pH6～6.5)。
- ・播種後2日間の大雨や浸水で、発芽率が著しく低下(酸素不足による窒息)するため、播種後2～3日以内に冠水するような大雨が予想される場合は無理して播種しない。
- ・荒起こしは、圃場が乾くのを待ち、播種前日～当日に行う。  
(耕起してから晴天が続く場合は乾燥しやすい)
- ・天候が変わりやすい場合には、無理に荒起こしはせず、1工程で浅く耕起して播種する。

#### ○播種

- ・種子消毒：多湿条件で播種した大豆は、発芽の遅れや、土中で種子が腐り発芽苗立ちが劣りやすい。そのため、種子消毒(クルザーMAXX、キヒゲンR2フロアブル)等を徹底し、発芽率向上に努める。
- ・播種量：

播種時期 (月/日)	栽植本数 (㎡当り)	栽植様式(例) (条数)条間×株間×1株本数	播種量 (/10a)	窒素施肥量 (/10a)
7/16～7/25	18本 20本	(2条)75cm×15cm×2本 (3条)50cm×20cm×2本	5～6kg	—

#### ・播種深度

播種後2～3日以内に降雨が予想される場合→2cm程度の浅めに播種、鎮圧はしない。

播種後に晴天が続く場合や、土壌が乾燥気味の場合→4～5cm前後の深めに播種かつ鎮圧する。

#### ○雑草防除

播種前)「ラウンドアップ」「プリグロックス」など茎葉処理剤の散布において、風の強い日の散布は周辺水稻へ飛散する危険が大きいため必ず避ける。(場合によっては枯死まで至る)

播種直後) 土壌処理剤を散布し、雑草防除を行う。特に、近年問題となっているホオズキの発生が多い圃場では、「ラクサー乳剤」「フルミオWGD」が効果的である。播種直後の散布でも隣接圃場の水稻へドリフト防止のため風速と風向きに注意し、風が強い日には散布しない。

※アサガオについては、多発すると大豆の作付け自体が困難になるため、見つけ次第手で抜き取る。

※すでにアサガオ類が多発している圃場では、トレファノサイド乳剤の全面土壌混和处理(播種前に200～300ml/10a散布→速やかに荒起→播種)で密度を減らすことができるため、土壌処理剤や大豆生育期除草剤、中耕・培土と組み合わせた防除を実施する。

### 令和5年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：佐賀）

佐城農業振興センター

